

家族農業の 10 年に向けた国連の国家計画（The National plans）の推進のためのガイドライン

WRF は、家族農業の全国委員会（NCFs）、家族農業の組織メンバーおよび WRF 協力者に、国連家族農業の 10 年のための国家計画を手助けし、その野心的な目標の達成に貢献するための手引書を提供します。

はじめにとコンテキスト

2017 年 12 月 17 日に、国連総会は 2019 年から 2028 年を国連家族農業の 10 年 (UNDF) に関する宣言を決議 72/239 を採択しました。

IYFF-2014 の成功に基づいてこの 10 年の要望が勝ち取れたことは、市民社会にとっては市民の声を公共政策につなげていく道筋を開いたという点で非常に大きな成果であることは間違いないです。家族農業の 10 年の宣言のためのキャンペーンは、国際機関、特に FAO、IFAD、ILC、CPLP、REAF などによって広く支持されました。公式には、コスタリカ政府が主導し、他の 13 の政府とともに 10 年の解決策を提案しました。この提案は 104 か国で支持され、全会一致で承認されました。この強力な支持は、家族農業に対する支援が開始されるという歴史的な意義を持っています。しかし、このまま宣言だけで終わるのではなく具体的な政治の動きに変えていくことが必要です。

家族農業の 10 年のためのグローバル計画

2019 年 5 月 29 日、ローマで FAO と IFAD が組織した国連家族農業の 10 年の正式な立ち上げには、448 人（主に政府代表、農民組織、家族農業の全国委員会）が参加し、国連家族農業の 10 年グローバル規模での行動計画が正式に開始されました。したがって、この計画は、国際機関および政府によって採用された公式文書です。

行動計画は、さまざまな利害関係者、特に農業組織のために FAO と IFAD によって開始され広範な協議を経たものであり、さらに 2019 年 3 月に WRF が主催した家族農業に関する VI（第 5 回）グローバル会議中にビルバオで開催された議論の結果でもあります。この中で、家族農業の世界計画の草案が議論され、作成されました。この結果としてのグローバル計画は、今後 10 年間で家族計画の 10 年を発展させ、実現していくための枠組みとなります。

この計画は 7 つの柱に分かれており、最終的には家族経営を支援する政策や計画と規制を創出するために必要な活動です。7 つの柱には、有効な政策環境の創出、世代の持続可能性、男女平等、家族農家の組織の強化、社会経済状況の改善、家族農家の回復力と福祉、家族農業の促進及び気候変動に直面している家族農業の多角経営の強化が含まれています。

計画の一環として、国連家族農業の 10 年が草の根に到達し、プラスの影響をもたらすために不可欠な 100 の国連家族農業の 10 年の国家行動計画の作成と実施を手助けするための介入があります。

家族農業の 10 年の国家行動計画とは？

国家行動計画は、家族農業の持続可能な発展を支援するための取り組みに対して国と地域が公共政策、プログラム、規制を通じて、取り組むことを考慮したものです。これらは、10 年の実施を全国的に進めるように設計されており、さまざまな利害関係者によって特定されたニーズと優先順位を、家族農家とその生計のために活動や政策に変えていきます。行動計画は、最終的には、それぞれの国で政府が関与し家族農業を支持し、承認されなければなりません。

国連家族農業の 10 年の国家行動計画が重要なのはなぜか？

国家行動計画は、持続可能な食料生産、農村開発の促進、農村貧困との戦い、生物多様性の保全、文化の保存を促進し、総合的な観点から人類の持続可能な食料生産の未来を最終的に確保するための具体的な仕組みづくりのためのものです。

この計画は、政府と家族農業の代表者の間で議論するための重要な機会を提供するはずですが。これには、i) 家族農家の組織、家族農業の全国委員会、およびその他の政策対話プラットフォームを周知させること、ii) 国の家族農業の優先順位を共同で定義すること、iii) 政府およびその他の利害関係者とポジティブな環境を確立し、国連家族農業の 10 年の枠組みの中で家族農業開発を支援するために、どのような政策、プログラム、規制が実施されるかについて合意を図ることを含みます。

したがって、それらは、さまざまな省庁間、特に政府、議会、国際組織、家族農民組織、家族農業の全国委員会、学界、研究センター、開発などのさまざまな利害関係者の間で政策を構築するための包括的な対話プロセスを改善するための重要なツールです。

国家計画は 2030 アジェンダとの明確なリンクを確立し、国連総会および将来の監視メカニズムに関する国連家族農業の 10 年の進捗報告の一部を形成することが期待されています。

国連家族農業の 10 年の国家計画はどのように策定されているか？

ローマで正式に承認された国連家族農業の 10 年のグローバル行動計画は、政府、公共団体、および地域政府が、家族経営者や家族農業のための全国委員会を含むその他の主要な利害関係者を巻き込み、包括的な計画を策定することを推奨しています。FAO と IFAD は国連家族農業の 10 年の事務事項を共有しています。つまり、FAO と IFAD の国内および地

域事務所は、国連家族農業の10年の国家計画の策定につながる議論を促進し、会議を開催するための重要なツールです。このため、国と地域のFAOとIFADの事務所にプロセスに関して十分な情報を提供し、家族農業の10年に関するグローバルプランに関連する文書を確実に保管するための作業が行われています。

さまざまな利害関係者、特に政府、農民組織、家族農業の全国委員会、その他の対話プラットフォーム、FAO、IFADが生産的で明確な議論を行い、目標を達成するために必要な目的と手段、およびそのような合意に同意することが推奨され、国連家族農業の10年の家族農業計画に反映されています。

最初のステップは、農業省との会議を要請することに加えて、家族農業の10年を公式に担当する組織である国内のFAOとIFADの事務所に、国家計画を策定するためにこの包括的な対話を刺激しオーガナイズすることです。

家族農業の全国委員会は、家族農業の10年で広く認識されている政策対話プラットフォームです。家族農業の10年革命、ガイド文章、およびグローバル行動計画に掲載されています。たとえば、家族農業の10年ガイド文書では、家族農業の10年を実行するための仕組みとして家族農業の全国委員会を含む、国、事業者、消費者、有識者など複数の関係者が参加し、オープンなプロセスでルール策定を行うことなどと言及されています。したがって、家族農業の全国委員会は主要な利害関係者であり、国家による国連家族農業の10年の国家行動計画の策定を促進し、貢献する拠点であり、国際機関や国の他の利害関係者と緊密に協力しています。

国家計画は、国連家族農業の10年グローバル行動計画で設定された10年の7つの柱のすべてまたは一部を中心に構成することをお勧めします。進捗状況を反映するために、2年ごとに更新できるグローバルおよび半年ごとの目標の確立も推奨されます。

グローバル行動計画には、国連家族農業の10年の国家計画の創出の参考として利用できる一連の示唆的なアクションが含まれています。ただし、示唆的なアクションは、世界のさまざまな家族農業システムや国や地域で策定されたさまざまな政策アプローチすべてに必ずしも適しているとは限りません。

進行中または計画中の政策、プログラム、行動も国家行動計画に含まれている可能性があり、国連家族農業の10年の国家計画は各国の家族農業への支援の枠組みを包括的に反映しています。

協議の終わりに、各国政府は、国連家族農業の 10 年の国家計画について合意された内容を FAO と IFAD（共同 10 年事務局）に、FAO と IFAD が各国に持っている事務所を通じてローマに報告する前に伝達する責任を負うべきです。

モニタリング

国内の実施に加えて、10 年の監視と報告の仕組みは、その成功を確実にするための主要な機能の 1 つです。グローバルアクションプランに登場する 10 年の野心的な目標を監視する必要がありますが、さまざまな政策や公共投資の発展と、それが農村コミュニティに与える影響も監視する必要があります。2 年に 1 回の行動報告書を作成するとともに、2030 アジェンダの自主的な国内レビューとの明確なつながり確認することで、持続可能な開発は家族農業を重要視することでのみ達成されることが広く認識され、家族農業の 10 年は素晴らしい契機となるはずです。

家族農業のための全国委員会（主に家族農家の組織が主導）および 10 年の国家計画の策定、監視および実施のためのその他の政策対話プラットフォームの認識と強化は、間違いなく、10 年の成功につながります。

補足資料

- 家族農業に関する VI グローバル会議で生じた国家計画の構築のアイデア
- 国家行動計画を推進するために国連家族農業の 10 年によって定義された共通ロードマップ（家族農業に関する VI グローバル会議中の国連家族農業の 10 年作業セッション）
- 家族農業の 10 年のためのグローバル計画